

消費税率引上げ後の消費動向等 について（7月第2週）

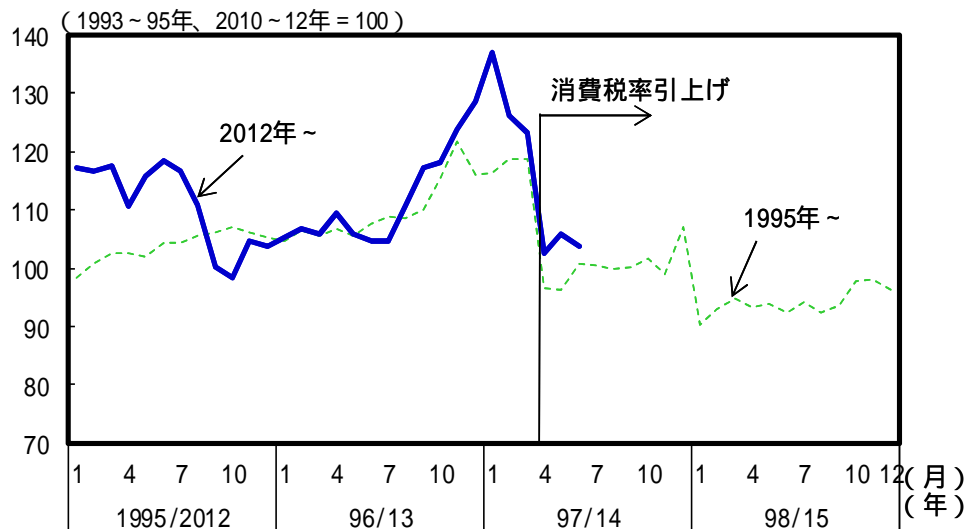
平成26年7月18日

内閣府

自動車・家電販売の動向

自動車販売は、6月は前年比でほぼ変わらずとなった。
また、受注台数の前年比マイナス幅は、おおむね横ばい。

新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

自動車販売台数（除軽、登録ベース）は、7月第2週は、台風の影響やデータの振れもあって、マイナス幅が拡大した。実勢では、6月から状況は大きく変化していないとみられる。 【業界団体A】

軽自動車販売台数（届出ベース）は、前年比でマイナスとなっており、6月と比較して状況は良くない。全体としてはあまり影響していないものの、一部の地域では台風の影響もあったと考えられる 【業界団体B】

主要5品目の家電販売は、7月第2週では、気温が低かったことから、前年比37%程度減と先週よりマイナス幅が拡大。天候の影響を除けば、反動減からほぼ持ち直している、との声も聞かれた。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜）



(備考) 1. GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により内閣府作成。
2. テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。

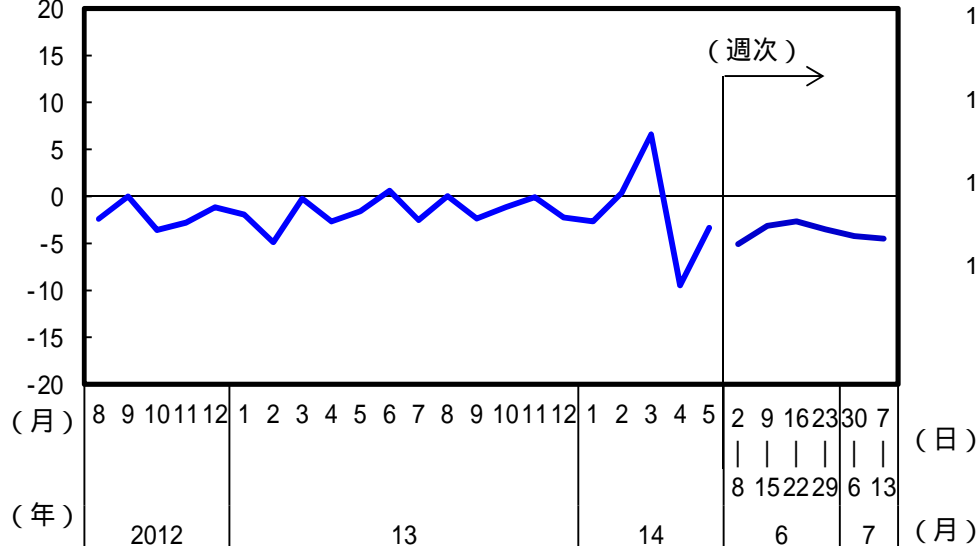
7月第2週も、気温が低かったことから、エアコンが不調だったため、主要5品目では、前年比マイナス幅が拡大。全カテゴリーでは、前年比25%となった。エアコンや冷蔵庫以外の品目は、徐々に回復してきており、天候に左右されるエアコンの売れ行きが売上全体を押し下げている。 【市場アナリスト】

7月第2週も、気温が低かったことから、エアコンが不調で、前年比2割強とマイナス幅が先週より拡大。しかしながら、天候の影響を除けば、反動減からほぼ持ち直している、と認識している。 【家電量販店】

飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、7月第2週では、前年比約4%減と先週からほぼ変わらず。反動減から持ち直している、との声も聞かれる。

飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）（税抜）
（% 前年比）



(備考) 1. KSP (全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計) により作成。
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。
4. 7月7日~13日のデータは、速報値。

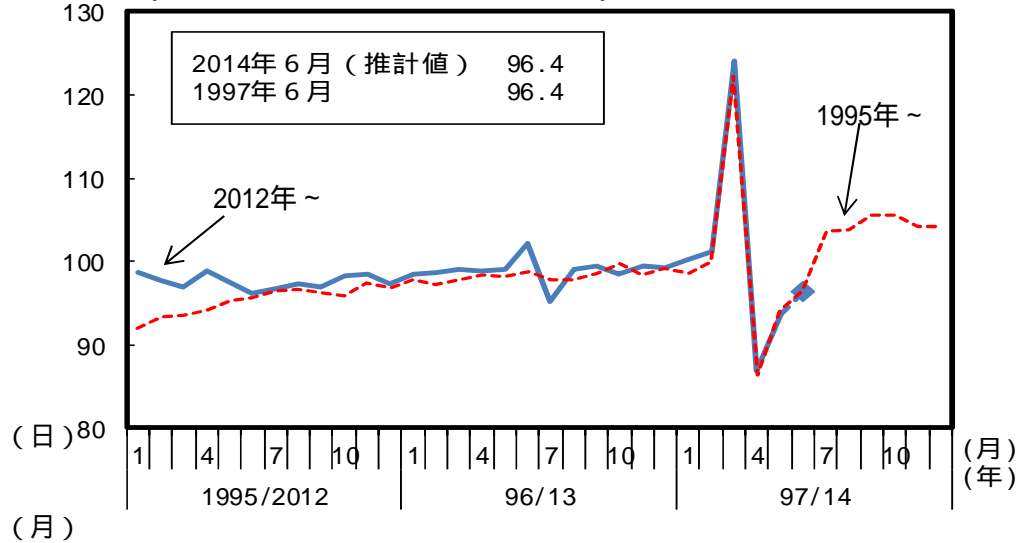
7月第2週の売上の前年比は前週とほぼ変わらず。平日は台風の影響で売上が減少したが、週末は天候に恵まれ、客足も伸びた。最近の売上は、主に天候に左右されていることもあり、反動減からは持ち直している、と認識している。
【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、6月以降も堅調に推移するものとみられる。外食は、消費税率引上げの影響は軽微であり、7月第2週も引き続き堅調との声も。

売上高の前年比は、今年の気温が低かったことから、マイナスとなったが、新商品が好調で売り上げは堅調。
【外食チェーン】

大手百貨店の7月第2週の売上は、前週に比べて前年比減少幅が拡大した。夏のセールスの動向や中元商戦が昨年と比べて低調である、との声がある。

百貨店売上高（税抜、全店ベース）
（1993年、2010年=100、季節調整値）



(備考) 日本百貨店協会等により作成。6月の値は推計値

7月第2週の売上前年比は、先週に比べて悪化した。台風等の天候要因もあると思うが、特にクリアランスセールスの動向が昨年と比べてよくない。通常夏にも行う春物セールを、今年は4月に前倒ししたことも影響しているかもしれない。
【百貨店A】

7月第2週の売上前年比は、先週に比べて悪化した。台風などの天候要因に加え、中元商戦が足下で昨年より低調に推移していることが影響している可能性がある。
【百貨店B】